

キャリア・インサイトの活用

—大学等における実践例—

カウンセリング 事例6

キャリア・インサイト
×大学

こころとキャリアのカウンセリングオフィス結ゆう
代表

山本公子

■はじめに

「職業適性診断システム キャリア・インサイト」は、若年層（EC）から中高年齢層（MC）まで幅広く利用できる総合的なガイダンス・システムとして、相談に活用しやすいツールである。筆者の場合、主な活用場面は、①大学における学生や大学院生を対象としたキャリア・コンサルティング、②大学の臨床心理科目で、アセスメント・ツールの一つとして導入、③カウンセリンググループへの来談者（大半が職業経験のある成人）のキャリア・コンサルティングである。ここでは①②での活用方法、事例を紹介する。

■大学におけるキャリア・コンサルティングでの活用

学生（大学院生、既卒生を含む）のキャリア相談（個別相談）は予約制で、就職や進学といった進路や生き方まで幅広く対応している。就職活動に関わるものが大半であり、適性理解に関わるもの、エントリーシート、自己PR、面接対策等就職活動の進め方、就活の悩みなど、メンタル面の問題、大学院進学等がある。

「自己PRの書き方」といった就活ノウハウを求めている場合でも、自身の職業に対する考え方、適性や価値観の理解といった基本を確認し、できる

だけ自己理解を深めてもらう。また、学生は職業経験が少なく、将来の可能性を探ることになるので、職業適性の把握はウエートが大きい。

相談では必要に応じて、能力、職業興味、性格、価値観等、各種の適性検査やチェックリストを利用している。ペーパーテストは相談枠約50分の中では実施・採点・整理に時間がとられる。また、インターネットを使うツールは相談個室内で利用できない。

■個別相談での利用方法

キャリア・インサイトを組み込んだノートパソコンは、相談個室内に持ち込んで簡単に実施できる。実施後即結果が得られるので、一緒に画面を見ながら説明をし、感想を聴きながら、じっくり相談を進めることができる。

相談時間内では、「適性診断コーナー」を利用することが多い。15分あれば、適性評価（能力・興味・価値観・行動特性）を一つワンポイントで行ってアドバイスできる。

約30分あれば、あまり悩まずに答えられる学生であれば「能力の評価」「興味の評価」「総合評価」まで行い、フィードバックすることができ（時間のかかる学生であれば、無理せず自分のペースでしってもらうか、ペーパーテストを持ち帰り、じっくり取り組んでもらう。そもそも検査より傾聴を優先す

ることもある）。

結果プロフィールは視覚化され、コメントもあるので、おおよその方向性がわかりやすい。学生の納得感が高まりやすく、相談後には「方向性が絞れた」「自信につながった」「新しい面にも目を向けた」といった肯定的な感想が多い。示された職業例の内容を知らない場合も、職業名をクリックすれば、コンパクトな職業情報が得られ、併せて関連する興味領域と能力の特徴、関連する資格情報も得られるのは便利である。学生が知らなかった職業名であっても、自分の興味パターンに合えば「知らなかったけど、それも考えてみよう」と視野が広がることもある。

事例

文系学部4年生女子。「昔から本が好きで文章を書くことに興味がある」と出版・広告関係でエントリー。しかし就職活動で出版社の人に直接話を聞いたことで変わっていく。

「漠然」と思い描いていた、本好きなのとは違う。事務的な作業が多く、向いていない。他人のスケジュール管理や指示はできそうにない。また、編集の仕事は直接読者に喜ばれるわけではないが、直接喜ばれることをしたい。そうして仕事を一つひとつ理解し、現実にとりかかろう。それからは「人



図1

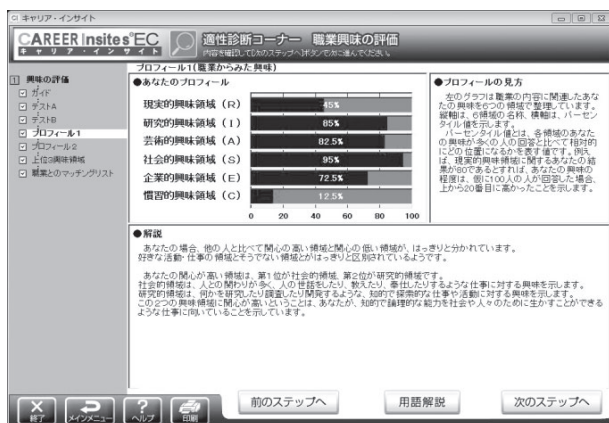


図2

と接する、自分に興味がある、手を使う」ことで、自然派化粧品、食品（添加物のない）、体にいいもの、エステなどリラクゼーションできるもの、人材会社等に希望を変更していった。

キャリア・インサイトECは適性や方向性の確認として、能力、興味、価値観、行動特性、総合評価まで、2回に分けて行った（結果例は、図1、2）。結果ははっきりとした傾向が見られ、クライアントの目指す方向性と合っていた。能力の評価（図1）は、ボランティア&サポートが1位で、職業例には美容部員、エステティシャン等がある。

職業興味の評価（図2）は、S社会的、I研究的、A芸術的の順になり、C慣習的は最下位で、事務的作業を好まないうことが改めて示された。

職業マッチングは、1位と3位の領域で美容部員、エステティシャン、絵本作家が、2位と3位の領域で雑誌編集者、作家、デザイナー等の職業が示された。なお、1位S社会的と4位E企業の領域の職業例に「キャリア・カウンセラー」等がある。

基礎的志向性のプロフィール（詳細）では、「人の役に立つ」が満点であり、反面「自分を表現する」が非常に低く、「人に指示するのは苦手、ノーが言えない」とのこと。また、行動特性では「個人プ

レー、改革、組織人、リーダー、スペシャリスト、負けず嫌い」の特徴が示された。彼女の感想は次のようだった。

「興味と自信が客観的にわかった。エ

ントリーしている人材分野や化粧品など、この方面でよいとわかった。価値観や行動特性では、自由がよいことや、多くのことをするよりも一つのことをやりたいと思った。落ち着いてできること、ゆつくり、きっちり向き合う特徴があると前からわかっていたが、当時は仕事と結びつけてなかった。就活をしていて、自分の揺るがないところ、本当の性格、自分にとって大切なものは変わらないと感じることができた」

フィードバックでは一緒に結果を見ながら話し合っ、よいところを引き出すことや、その人ならではのストーリーを将来に向かって作り上げられるよう支援することを心がけた。彼女が自己理解を深め、目指す方向に自信を高め、就活を頑張ろうと思ったことを確認し、その回の相談を終えた。

専門職向け講義での活用

臨床心理各論（ライフキャリアの支援）の講義において、キャリア・インサイトの学習を取り入れている。キャリア・カウンセラー用のツールは初めてという人が多いが、キャリア・インサイトは前もっての知識なしで直感的に扱えるので、まず体験してもらおう。比較的短時

間で、職業適性を調べ、キャリアプランを考える一連のキャリア・コンサルティングプロセスを体験することができる。

大学から直接進学した人と、社会人経験を経て入学した人がいるので、ECとMCを比べることができた。了解を得て、結果プロフィールを見せて、話し合った。プロフィールは視覚化され、特徴がわかりやすく比較しやすいので、このようなグループワークにも適している。

心理職やカウンセラー希望ではあるが、働く場の希望は、産業領域、若者キャリア支援、子ども対象と異なっている。結果には各人それぞれの興味、価値観、職業や人生経験が反映され、本人の気づかない面や、ふだんの印象と違う面も現れた。自分の特性をはっきりと認識し、職業と結びつけて考える機会はありませんので、客観的な結果を踏まえて、将来どんな場でもどのように働きたいか、方向性や将来の可能性を考えてもらう機会になった。

おわりに

以上、キャリア・インサイトの活用の一部を紹介した。使い方やワークを工夫して相談への効果を高めることができるのではないかと考えている。簡便でありながら、意義深い使い方ができる。皆さんも気軽に試して、魅力ある使い方を発見していただきたい。

（職業研究2014夏季号より）

※事例は、本人が特定できない程度に変更を加えています。